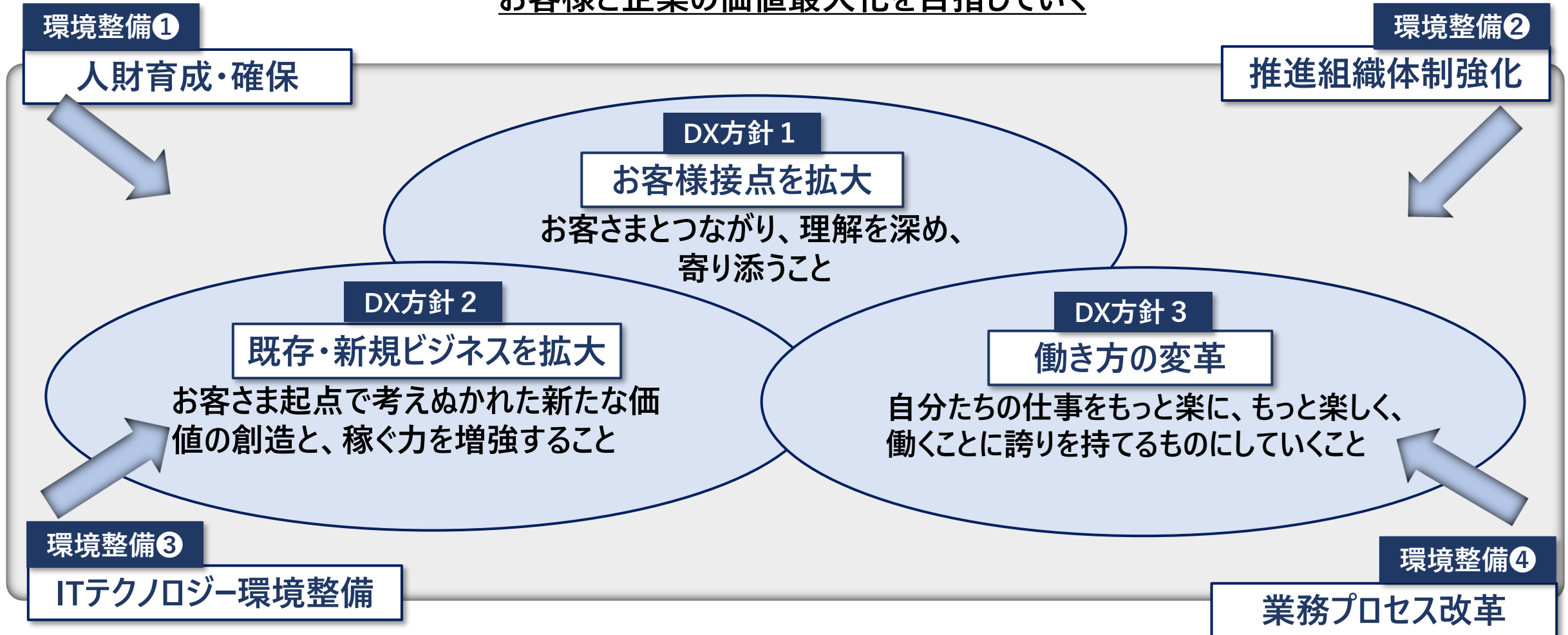


# サッポログループのDX推進について 【DX戦略推進概要】

4つのDX事業環境整備のもと3つのグループDX方針で戦略推進し、  
お客様と企業の価値最大化を目指していく

『4つのDX事業環境整備（以下、環境整備）』のもと『3つのグループDX方針（以下、DX方針）』にて戦略推進し、サッポログループにかかわるあらゆるステークホルダーと共に成長し続け、お客様と企業の価値最大化を目指していく



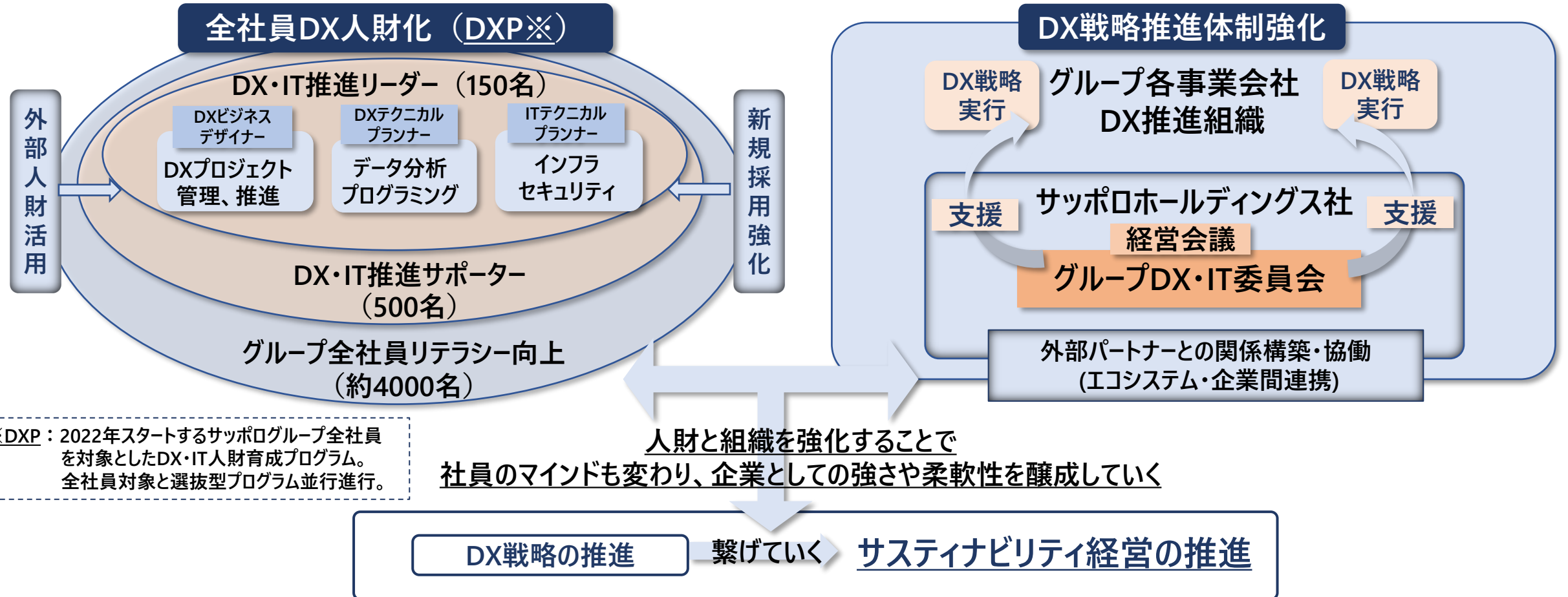
# 4つの環境整備

## 環境整備① 人財育成・確保

- 2023年までに650名規模のDX推進人財育成、及び全社員DXリテラシー向上を実施し、グループ全体の戦略推進力向上を図る。
- 上記に加え新規採用、外部人財活用により専門人財を強化。

## 環境整備② 推進組織体制強化

- SH経営会議に属するグループDX・IT委員会を新たに設置、グループ各事業会社のDX戦略推進を多角的に支援し加速させる。
- 外部パートナーとの協働を拡大・強化することでDX推進力を強化。



※DXP：2022年スタートするサッポログループ全社員を対象としたDX・IT人財育成プログラム。全社員対象と選抜型プログラム並行進行。

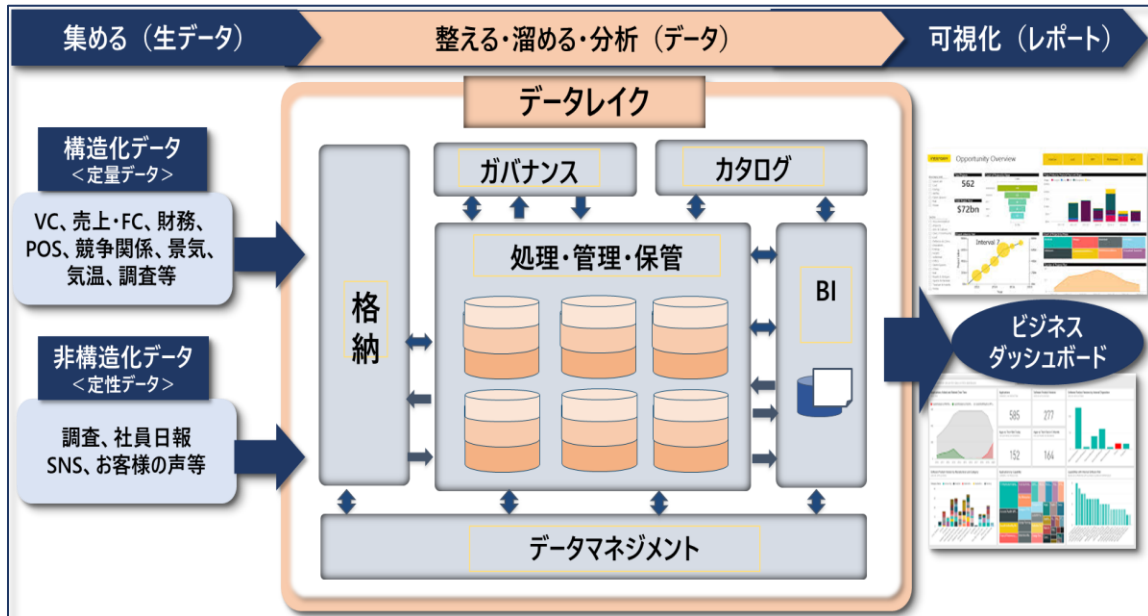
# 4つの環境整備

## 環境整備③ ITテクノロジー環境整備

### パブリッククラウド+データレイク

- ・クラウド上にビジネスや社会環境の変化に柔軟に対応できる、効率的なデータ基盤を2025年までに確立。
- ・そこにデータレイクを構築しデータの民主化を進め、社員誰でもデジタル技術を活用できる環境を整備し、様々なビジネス課題の解決を図る。

### ■ サッポログループのデータレイク全体構想



### セキュリティ強化

- ・各システムに対する適切なセキュリティ対策の実施、切れ目のない高度な監視体制構築。
- ・システム・データのバックアップ取得、アクセスを限定したシステム運用

### ■ サッポログループにおけるセキュリティ対策ポイント

- ① 攻撃動向に対応した多層防御の実現
- ② SOC (Security Operation Center) による24時間365日の監視・対応体制の構築
- ③ 全従業員に対する標的型メール訓練等の教育訓練
- ④ 遅滞の無い最新版アップデートの励行

セキュアな環境のもと、グループ全体のデータを蓄積・集約できる総合データプラットフォームを構築。経営から現場まで「共通・同一のデータ」を見て戦略策定・意思決定することにより、課題解決力の向上を図る。

# 4つの環境整備

## 環境整備④ 業務プロセス改革

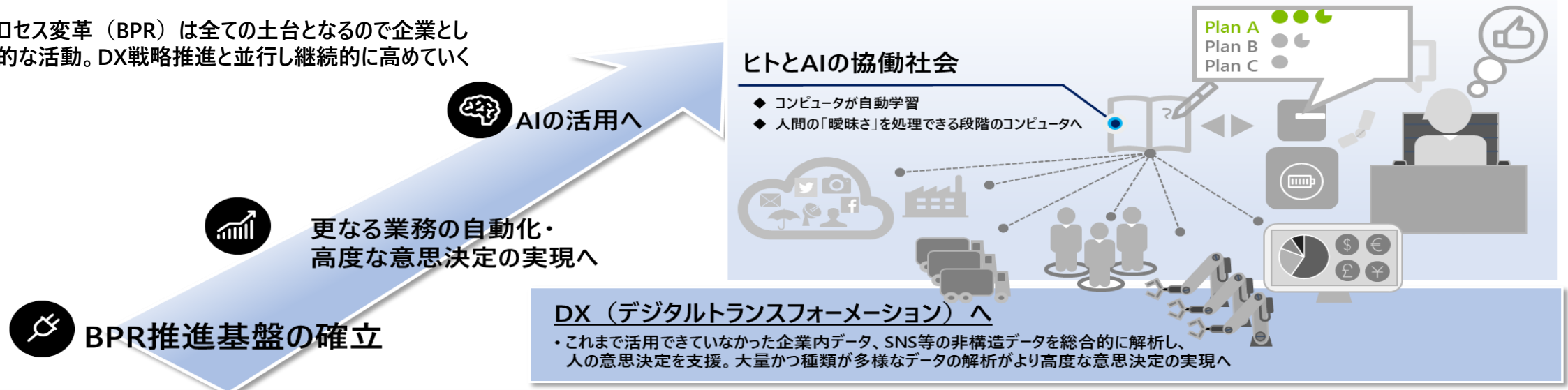
- BPR (※) は、将来の業務・会社のあり方・働き方 (= DX) へシフトするために必要不可欠な活動として2018年開始し現在も継続中。
- 2022年12月時点で、グループ全体で約36万時間 (約220人分の労働) の業務効率化達成見込み。

※BPR (Business Process Re-engineering)

BPRとは、業務・組織・戦略を根本的に再構築することを指します。つまり、企業の目標を達成するために、企業活動や組織構造、業務フローを再構築すること。

### ■業務プロセス改革 (BPR) を土台としたDX展開シナリオ

業務プロセス変革 (BPR) は全ての土台となるので企業として永続的な活動。DX戦略推進と並行し継続的に高めていく



BPRはDX化に向けた全ての土台で且つ、永続的な活動。未来永劫継続的に進めて行く事が重要。

#### 業務効率化

廃止

簡素化  
標準化

集約化

業務プロセスの廃止、簡素化、ルールや手順の統一による標準化、共通業務を横断的に実施するによる集約化

#### 業務実施主体の変更

外部化

自動化

委譲できる業務を切出し、外部へ委託  
又は  
RPA・AI・IoTでの自動化へ

# 3つのDX方針

## DX方針1 お客様接点を拡大

お客様とつながり、理解を深め、寄り添うこと

- ・お客さまの『理解を深める』、お客さまとの『接点を増やす』、『直接つながる』こと。
- ・理解し、つながる事で、お客さま一人ひとりの『記憶に深く残る特別な時間や体験を提供』することを実践していく。

## DX方針2 既存・新規ビジネスを拡大

お客様起点で考えぬかれた新たな価値の創造と、稼ぐ力を増強すること

- ・これまでの『固定概念に捉われない』新しい価値の創造、『お客さま起点』で考えぬかれた新しい価値の創造。
- ・それらの価値を提供することで、『これまでの商売・新しい商売を大きく、太くしていく』ことにチャレンジしていく。

### 具体的展開例

#### 新アプリ開発

スタートアップ共創型ビジネスコンテストから生まれた、家庭食材からレシピ・買い物を提案するwebアプリ「うちレピ」を2021年から展開中。

■登録した食材からAIがレシピ（食材含む）を提案する仕組み

#### 在庫登録とレシピ検索

家庭にある食材在庫を登録すると、つくれるレシピや買い足し食材を提案



在庫登録 → レシピ検索

#### 献立作成とコミュニケーション

献立を作成し、家族とコミュニケーション活性化



献立作成 → コミュニケーション

2026年ユーザー数目標70万。小売りメーカーのDX推進・紙チラシ脱却ニーズ  
食品メーカーの家庭実態データ取得ニーズ  
を捉えたBtoBビジネスモデルも視野。

# 3つのDX方針

## DX方針 3

### 働き方の変革

自分たちの仕事をもっと楽に、もっと楽しく、働くことに誇りを持てるものにしていくこと

- ・新たな技術を活用し、自らも、『もっと楽に、もっと楽しく働ける世界を創る』こと。
- ・更に、グループ全体としての「情報網の構築」を行い、『あらゆるステークホルダーと繋がり、ともに成長し続ける環境をつくる』ことを実践していく。

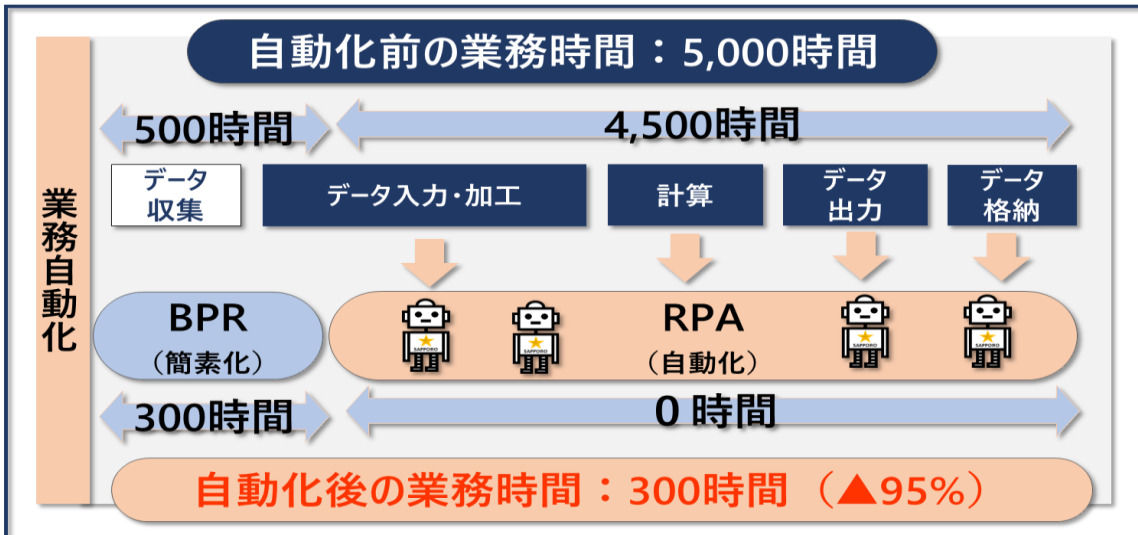
#### 具体的展開例

#### 業務の自動化

※Robotic Process Automation

RPA(※)による単純作業の徹底した自動化を推進中。

■業務自動化の一例（データ収集・加工・格納業務約95%の業務を自動化）



現在、約80の業務（約55,000時間）の自動化が完了しており今後も自動化範囲拡大させていく。

# DX戦略推進で実現を目指すグループ成長指標

DX戦略を強かに推進し、『グループ経営計画2024』に掲げている  
全てがお客様の価値創造につなげる仕組みへの変化の原動力とし  
【グループ財務目標】である各指標の実現を目指していく

